

地すべり学会東北支部『第11回総会』参加報告

村上信弘

地すべり学会東北支部による第11回総会が、下記の内容で盛会の内に開催されました。

日 時：平成7年5月12日 13:00~19:00

参加者：128名

会 場：ホテルメトロポリタン仙台

特別講演：「北海道の地すべり地形について」

地すべり学会北海道支部長、北海道立地下資源調査所 山岸宏光氏

討 論 会

話題提供-1：「活断層と地盤災害」 東北工業大学教授 盛合禧夫氏

話題提供-2：「宮城県青葉山地すべり」 宮城県土木部砂防課 宮本 登氏

村井 怜氏

日本工営株式会社 原 龍一氏

定期総会后、13:30より東北学院大学教授宮城豊彦氏が座長を務め、山岸宏光氏が「北海道の地すべり地形について」と題して、特別講演が開催されました。

山岸氏は、1966年より北海道立地下資源調査所に勤務し、火山砂防、地震災害、地すべりの分野で、永らく活躍されています。また、地すべり学会北海道支部の支部長を併任されています。

1993年に北海道支部においても、東北支部の「東北の地すべり、地すべり地形」と同様の冊子を発行しておられます。その内容は、①北海道の地すべり地形のデータベース化、②地すべり地形の分布、地質との関連、③各地域の地すべりと地すべり地形の3点について整理したものであることを冒頭に述べられました。

地すべり地形のデータベース化は、北海

道全域における約12,800箇所の地すべり、地すべり地形について、分布場所の行政区分のみならず、地すべりの形態、地質についてもデータ化したものでした。また、道内の地すべりの形態的特徴から、北海道の西部、中央、東北の3地域に分類される。これらは、地質に支配されていること等を、代表的な地すべり地形のスライドをみせながら説明されました。

14:40より、討論会が引き続き行われ、まず最初に盛合禧夫氏が、「活断層と地盤災害」について講演されました。

盛合氏は、地盤災害について、①活断層の存在と地盤災害の予測、②活断層と関連する地盤災害、③活断層とは関係ない災害、④災害の複合帯の4点の観点から説明されました。

この中で、仙台付近の活断層は、長町一

利府構造線、大年寺山断層、鹿落坂断層等が分布し、これらのリニアメント付近に崩壊、地すべり地域が多く分布する。また、地すべりが不整合面に多いことに着目し、大年寺山層と青葉山層の圧密降伏応力から算出された不整合量と、地すべり或いは断層との関係を検討した例を挙げた。最後に、盛合氏は、地すべり解析について、地形、地質、構造だけにとらわれるだけでなく、土質工学を採用することにより幅広い解析ができることを力説されました。

次に、15：40より、宮本氏、村井氏、原氏から、「宮城県青葉山地すべり」についての報告がなされました。

宮本氏は、青葉山地すべりが昨年の福島県滝坂地すべりに続き、今秋の現地検討会会場であることを述べ、多数の参加を呼びかけられました。

村井氏は、宮城県の地すべり概要として、地すべりの分布、地すべり防止事業について述べられました。宮城県の地すべりとしては、地すべり危険箇所が160箇所、地すべり防止区域指定箇所が49箇所、内概成箇所が28箇所である。これらの地すべりは、地理的条件から、白石川沿岸及び阿武隈川流域の県南地域、仙台西方丘陵の県央地域、鳴子から栗駒へ至る県西北地域の3地域に大別され、いずれもグリーンタフ及び相当層の分布地域に当たると述べられました。

原氏は、青葉山地すべりについて、地すべりの概要、地形、地質、地すべり機構、対策工について報告されました。青葉山地すべりは、仙台市の中心部より西方約4 km、仙台市荒巻青葉山地内に位置し、広瀬川が

青葉山を開析した狭窄部の右岸側、放山地すべりの対岸にあたる。昭和57年の長雨により活動を開始し、昭和61年の台風10号により、浅層崩壊や水路等に顕著な変状が認められた。地すべりの素因として、梨野層凝灰岩の上位に三竜玄武岩類が堆積し、熱変成に伴う弱部を形成するとともに、キャップロック構造を呈している。誘因として、広瀬川の下刻により、熱変成に伴う弱部及び梨野層が河床路に露出し、斜面が不均衡となって地すべりが発生している。また、不均衡の原因として、豪雨に伴う地下水の上昇が考えられる。対策工として、河川護岸工と地下水排除工を中心に施工してきたこと等を報告されました。

話題提供後、座長の盛合氏より、地形、地質、構造、地下水、防止対策等について8名が指名され、各質問者から、各々の分野で鋭い質問が出されました。今秋の現地検討会への重要な検討課題となった。ところで、この指名質問は、地すべり学会東北支部の恒例であり、参加者全員が、自分に指名がくる場合を想定し、熱心に聴講していた。

17：00より、同ホテルの芙蓉（西）の間において、講師5名を交えた参加者80名の懇親会が盛会の内に行われました。盛合氏は、支部長挨拶で、制約のある会費の中で、このような華やかな会場で総会が開催できたのは事務局の努力の賜物であること、地すべり学会も若手育成が必要であり、各事業所からの若手の参加を強調されていました。

(株式会社エン지니어リング)



講演中の山岸先生



講演中の盛合先生



講演中の会場風景